

葉隠を読む

江戸時代中期にまとめられた武士道書『葉隠』。二代佐賀藩主鍋島光茂に長年仕え、光茂の死後出家した山本常朝が鍋島家に仕える武士としての心得を口述したものを、佐賀藩士・田代陣基が筆録したもので、全 11 巻にわたります。

佐賀藩士としてあるべき姿・心を示し、「大慈悲の心」を重んじたその書は、佐賀藩士たちの間で書き写され、現代にも読み継がれています。

佐賀県立図書館では、写本や葉隠にまつわる様々な資料を所蔵しています。

葉隠の概要

葉隠全 11 巻の構成

- 1・2 巻は教訓（山本常朝の言葉や教え）
- 3 巻は藩祖鍋島直茂の言行
- 4 巻は初代藩主鍋島勝茂とその嫡子忠直の言行
- 5 巻は二代藩主鍋島光茂と三代藩主綱茂の言行
- 6 巻以降は佐賀藩士の言行および史跡、伝説、その他

最初の総論（夜陰の閑談）に、葉隠精神の真髄ともいうべき「四誓願」が記されています。

四誓願

- 一、武士道においておくれ取り申すまじき事。
- 一、主君の御用に立つべき事。
- 一、親に孝行仕るべき事。
- 一、大慈悲を起し人の為になるべき事。

山本常朝の思想に大きな影響を与えたと言われているのは、鍋島家の菩提寺である高伝寺第 11 世住職の湛然和尚と、佐賀藩第一の学者といわれた石田一鼎の二人です。「四誓願」は石田一鼎の「三誓願」に影響を受け、これに湛然和尚の慈悲の心を加えたものだと考えられています。

『葉隠』の名の由来

葉隠 入門編 葉隠研究会／編 S156/H12 P126 より

“葉隠”と名付けられた由来は諸説あり、

- ①西行法師の「山家集」にある和歌からとったとする説
“はかくれに 散り止まれる花のみぞ 忍びし人にあふ心地する”
- ②人里離れた大変さびしい所、周辺に木立が多く木の葉に隠れる草庵での語り合いという環境から思いついたとする説
- ③久米邦武の「草葉の陰から」「鍋島侍は覚悟の根本は死で、草葉の陰から鍋島藩を背負う精神である」から名付けたとする説
- ④葉隠にある“すべての人の為になるは我が仕事と知られざる様に、主君へは蔭の奉公が真なり（中略）陰徳を心がけ陽報を存ずまじきなり”からとったとする説
- ⑤五代藩主鍋島宗茂が金立権現原の田代陣基の家に立ち寄って「葉隠」と言ったという説などなど、ほかにもさまざまな由来が考察されています。



由来が記載されている主な本

- 『葉隠（入門編）』 葉隠研究会／編 S156/H12 2021 年 P126 ハ、葉隠とは
- 『いま、世界に生きる葉隠』 葉隠研究会／編 S156/H12 1992 年 P129『葉隠』の名の由来
- 『佐賀市史 下巻』 佐賀市／編 S211/Sa16/2 1973 年 P77～83

葉隠の原本・写本について

葉隠の原本はまだ見つかっていません。常朝は『葉隠』について「此始終十一巻追而火中すべし」（世の中のことを批判したり、推し量って考えたりした中で、自分の後学のために覚えていたことを話したが、これはその通りに書いてあるので、他の人が見たら遺恨や悪事にもなるだろうから必ず焼き捨ててしまうように）と陣基に何度も念押ししていましたが、藩士たちにより写し書きされて現代に伝わっています。この写本は、佐賀県立図書館にも所蔵しており、

佐賀県立図書館データベース『葉隠—HAGAKURE—』で写本を閲覧することができます。

》》『葉隠—HAGAKURE—』<https://www.sagalibdb.jp/hagakure>

写本の題名は「葉賀くれ」「葉かく禮」「波可久禮」などさまざまです。



葉隠の写本についての本

『佐賀の歴史と民俗』 福岡博先生古希記念誌編集会／編 S201/F82 2001年

P115～138 葉隠写本の比較について

写本を分類し、それぞれの写本の語句や文節の比較、県立図書館に所蔵されている不揃写本の比較について記載「火中すべし」について

『いまこそ葉隠』 大草 秀幸／著 S156/O57 2018年 P391～407 「火中すべし」と「^{みだり}漫草」

初心者の方へ

葉隠入門

『葉隠 見る・読む・訪ねる』 古賀 秀男／編 S156/H12 1996年

ふりがな付きで読みやすい。葉隠の内容や特色、成り立ちなどをわかりやすく説明している。

ゆかりの地も写真付きで紹介。関連年表や家系図を掲載。

『葉隠は暮らしの中に生きている』 藤井 楊子／著 S156/F57 2003年

原文を読むのはむずかしいという初心者の方におすすめ。身近な具体例が書かれているので理解しやすい。

『いつか読んでみたかった日本の名著シリーズ 17 葉隠』 S156/Y31 2021年

葉隠の全項目がわかるように巻末に一覧表あり。解説や、葉隠の内容を理解するための知識も記載。

教訓を抜き出し、わかりやすい現代語訳で読みやすくまとめている。原文の掲載はなし。

『今こそ名著 葉隠 処世の道』 S156/Y31 2019年

葉隠の教えのなかから90条ほど取り上げ、現代語訳と原文、解説で紹介。

「葉隠」や山本常朝・田代陣基の生涯についても紹介。

めざせ全文読破!!

葉隠全訳本

『新校訂・全訳注 葉隠 上・中・下』 菅野 覚明ほか／校訂 S156/Y31 2017年

原文・現代語訳・注で構成されており、登場人物の補注、山本常朝略年譜、解説もあり。

『定本 葉隠[全訳注] 上・中・下』 佐藤 正英ほか／校訂 S156/Y31 2017年

原本に最も近い形態を残しているとされる小山信就本（佐賀県立図書館蔵）を底本とし、写本の本文のみをテキストとして忠実に訳出した。常朝と陣基の出会いや時代背景を丁寧に説明。充実した解説もあり。

抜き書き葉隠

（いつか読んでみたかった日本の名著シリーズ 葉隠 P101）

好きなことをして生きるのが一番（聞書第二（八十五））

人間の一生は、本当に短い。好きなことをして暮らすべきだ。夢のような束の間の世の中にいて、嫌なことばかりして苦しみながら暮らすのは愚かなことだ。

このことは、悪い意味に解釈すると害になるから、若者には語らない秘伝である。

自分は寝ることが好きだ。今の境遇にふさわしく、ますます家にこもり、寝て暮らそうと思うとのことである。

世界の HAGAKURE

葉隠は世界にも広がっており、英語・スペイン語・フランス語・ドイツ語・イタリア語・ポーランド語・ロシア語・トルコ語・中国語・韓国語などさまざまな国の言語に翻訳されています。

『HAGAKURE 葉隠 英訳版』アレキサンダー・ベネット／訳 S156/Y31 2014 年
葉隠 1 巻・2 巻を初めて完全英訳した本。3 巻から 11 巻までの抄訳を含む。

『Hagakure』ルイジ・ソレッタ／訳 S156/Y31 1993 年
初のイタリア語訳として出版された。はじめて読む人にも理解できるよう、導入解説文や固有名詞の解説もある。
『葉隠研究』22 号 P109～著者ソレッタ氏の経歴やイタリア語版について記載されている。

『葉隠研究』25 号 P4～著者ソレッタ氏の講演が掲載されている。

『葉隠聞書』李 冬君／訳・著 S156/H12 2007 年
葉隠の中国語訳。“日本を知ろうとするなら、まず武士道を理解しなければならない。そして日本武士道を研究するにはまず『葉隠聞書』が必読書である。”

『The Wisdom Of Hagakure 葉隠の叡智』Stacey B. Day／著 S156/D48
著者のステイシー・デイ氏は外国人として初めて葉隠の訳評を書いた。
『葉隠研究』28 号 P65～ステイシー・デイ氏が佐賀県立図書館で葉隠について勉強したことが記されている。
『葉隠研究』28 号 P68～、29 号 P49～、30 号 P39～『葉隠の叡智』の日本語訳が掲載されている。

『MOUDROST SAMURAI』Stacey B. Day／著 S156/St1 1998
『葉隠の叡智』の著者ステイシー・デイ氏の夫人がチェコ人であることから、自身の英文原著をチェコ語に訳した。

フランス語版 葉隠について

“武士道とは、死ぬことと見つけたり”という有名な一文を、フランス語では
“la voie du samourai reside dans la mort”(武士の道は、死することの中に存在する)
と訳されている。『葉隠研究』73 号 P27～フランス語に翻訳された「葉隠」より

葉隠研究本

『分類注釈 葉隠の神髄』栗原 荒野／著 S156/Ku61 1935 年（復刻版：1996 年）
葉隠からその神髄ともいうべき事項 741 節を抜き出し、ジャンル別に分類し注釈を付けている。

『校註葉隠』栗原 荒野／著 S156/Ku61 1940 年（復刻版：1975 年）
葉隠 11 巻 1343 節すべてを収録、全節にタイトルをつけ、詳細に注釈を施した初の史料。
底本は鍋島侯爵家所蔵の「山本本」と栗原家所蔵の「孝白本」で、その他 25 種の写本を校合した。
復刻本では、本文の漢字にすべてふりがながついており、付録として「直茂公御壁書」「要鑑抄」「愚見集」「銭別」「常朝書置」「壽量庵中座の日記」を収録。葉隠の成立、名義、内容などについて解説あり。
数多くの研究者が『葉隠の神髄』『校註葉隠』を参考図書としている。

葉隠の研究者

栗原 荒野

栗原 荒野(くりはら あらの) 明治 19 年(1886 年) 佐賀県東松浦郡浜崎村に生まれる。
荒野が葉隠に出会ったとき、葉隠初の活字本として中村郁一編著による『鍋島論語葉隠全集』が刊行されていたが、写本により忠実な注釈をつけ分類した本格的な「葉隠」を出版したいと考え、妻テルとともに葉隠の研究に没頭した。テルは写本 11 巻すべてを書写し、二人でコツコツと編集作業を続け、昭和 10 年『分類注釈 葉隠の神髄』を出版。荒野は勤務先の新聞社を辞め、生活苦に陥りながらも 5 年かけて校訂・校注を行い、昭和 15 年『校註葉隠』を出版。その後も『物語葉隠』『葉隠のこころ』などを出版し、葉隠の普及に努めた。息子の耕吾氏は佐賀県立図書館資料課長を務め、退職後葉隠研究に携わった。

『いまこそ葉隠』P311～「葉隠」と栗原荒野

『葉隠の世界』 古川 哲史／著 SI56/F92 1993 年

葉隠の主要問題に切り込み、解説する葉隠を読むためのガイドブック。

なかでも「追腹」「殉死」について詳しく記載。

『葉隠研究 創刊号～94号（最終号）』 葉隠研究会／編 SI56/H12 1986 年～2023 年

1986 年、佐賀鍋島藩が生んだ歴史遺産「葉隠」を、佐賀に育った者たちの手によって後世に伝えていこうと、「葉隠研究会」を設立。

以後年に 2 回『葉隠研究』が刊行され、葉隠に関するあらゆるテーマについて、研究者はもちろんのこと初心者も楽しめるよう構成されている。

『いまこそ葉隠』P249～葉隠研究会と会誌「葉隠研究」

『葉隠の深層』 種村 完司／著 SI56/Ta86 2024 年

葉隠の真価を発見するため、佐賀藩を献身的に支えた家老や年寄役の言行、藩組織の実態や真相に迫る。

『武士道の奥義 葉隠の原典「直茂公御壁書」』 青木 照夫／著 SI56/A53 2014 年

佐賀藩の藩祖鍋島勝茂の家訓「直茂公御壁書」をはじめ、山本常朝の遺訓「愚見集」、山本神右衛門重澄（山本常朝の父）の教訓を取り上げ、詳細な解説と現代語訳を付す。

『いまこそ葉隠』 大草 秀幸／著 SI56/O57 20 年

明治末年から今日までに出版された「葉隠」の本の解釈や論評を一冊にまとめたもの。葉隠がどのように読み解かれ、論評されてきたのかを抜き出ししながら、新たな「葉隠」の世界を伝える。

著名人と葉隠

三島由紀夫—わたしにとって、ただ一冊の本『葉隠』

三島由紀夫は 1995 年に『葉隠入門 武士道は生きている』を出版。そのプロローグ「『葉隠』とわたし」に次のように書いています。

“ここにただ一つ残る本がある。それこそ山本常朝の『葉隠』である。戦争中から読みだして、いつも自分の机の周辺に置き、以後二十数年間、折にふれてあるページを読んで感銘を新たにした本といえば、おそらく『葉隠』一冊であろう。（中略）戦争中の『葉隠』は、いわば光の中に置かれた発光体であったが、それがほんとうに光を放つのは闇の中だったのである。”

三島由紀夫と葉隠に関する本

『三島由紀夫と葉隠武士道』 北影 雄幸／著 SI56/Mi53 2006 年

『彷徨える日本史』 源田 京一／著 SI56/G34 2020 年

大隈重信—葉隠嫌い？

大隈重信は葉隠を「実に奇異なるもの」と呼び、（大隈伯昔日譚）“葉隠嫌い”という風評がありますが、葉隠を認め、評価したことも資料に存在しています。

「佐賀人の長所及び短所」という文章の中で四誓願を紹介し、“山本常朝先生は偉人であった。先生の意気は遂に今日の佐賀気質を生んだのである。”と述べたり、佐賀郷友青年大会で葉隠を取り上げて講演しており、“偉大なる言を表わせしは千古の大格言として尊ぶべきである。余の行動は八十年来皆この語に則りてやってきている。日本のみならず世界に誇るべき”と語っています。

大隈重信と葉隠に関する本

『葉隠』の研究 種村 完司／著 SI56/Ta86 2024 年 P170 大隈重信と葉隠武士道

『葉隠研究 34 号』 葉隠研究会／編 SI56/H12 P53 大隈重信と葉隠について

「葉隠」に関する本は、請求記号 SI56 にまとまっています。葉隠に関する本のほか、武士道に関する本も並んでいますので、ぜひ読んでみてください。

発行 令和 8 年(2026 年)3 月 26 日

佐賀県立図書館

〒840-0041 佐賀市城内 2 丁目 1-41

TEL.0952-24-2900 FAX.0952-25-7049

MAIL : saga-kentosyo@pref.saga.lg.jp

ホームページ : <https://www.tosyo-saga.jp/>

作成者：成清恭子（佐賀県立図書館 郷土資料調査・編さん課）